養老孟司

東京大学名誉教授
解剖学者

FRANS DE WAAL

オランダの動物行動学者
エモリー大学教授

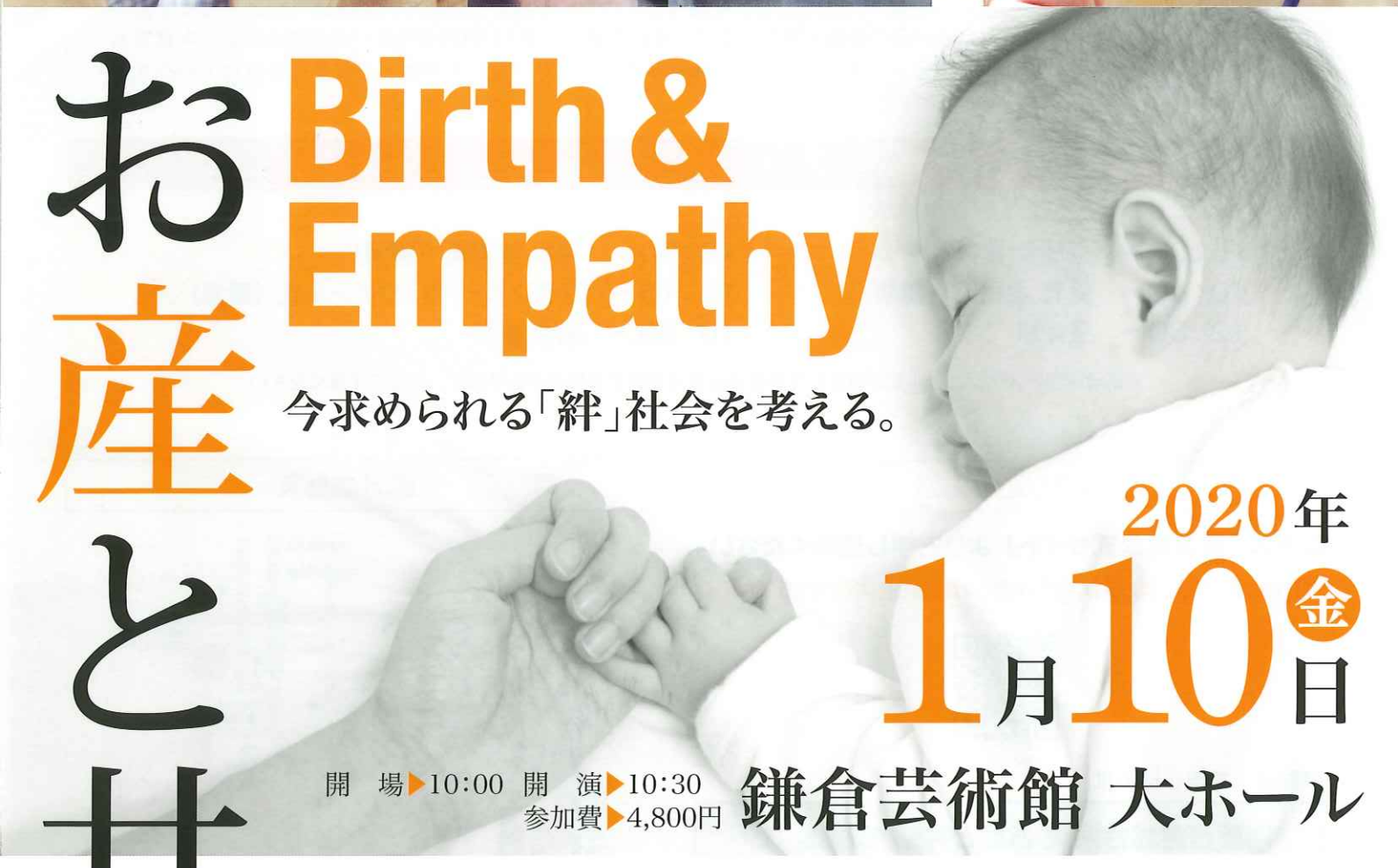
菊水健史

麻布大学獣医学部教授
動物行動学者

お産と共感

Birth & Empathy

今求められる「絆」社会を考える。



2020年 1月10日(金)

開　場▶10:00　開　演▶10:30
参加費▶4,800円

鎌倉芸術館 大ホール

井上 裕美（湘南鎌倉総合病院 副院長・産婦人科 主任部長）

今社会はシステムが大きくなりすぎて、窮屈に感じることが多いのではないだろうか。それがすべて悪いと言ってはいない、そこからおちこぼれたりする人達の気持ちをわかりたいと思う。人類は他人のことを思う気持ちを形成し生き残れた。この極めて大切な絆は産後の母子の結び付きに始まると言ったのは共感の大切さを世界に発信したフランス・ドゥ・ヴァールである。さらに菊水健史は生後の母子の時間が子の社会性に大事な影響を与えると言う。養老孟司のいうこの煮詰まった時代にふさわしい講演会にしたい。

共　催：湘南鎌倉総合病院 お産センター／湘南鎌倉バースクリニック

講 師 紹 介

養老 孟司（ようろう たけし） 氏　東京大学名誉教授・解剖学者。

「養老訓」での「普通のお産には医者の力は殆どいらない」と話すくだりは、私たちのバースクリニック設立の考えと重なり合う。「煮詰まった時代に」では「人間社会では人は置いてきぼり、システムが優先されていく」や「制度が構築された時に零れ落ちる感性」等を語る。お産の世界もいつの間にこの言葉の通りになっているのかもしれない。「とにかく生き物を甘く見てます」や「生き物は違うのです・・・・絶対に例外が出ますから」と言った感覚的思考と養老孟司先生に共感してしまう。

菊水 健史（きくすい たけふみ） 氏　麻布大学獣医学部介在動物学研究室教授。

麻布大学獣医学部の教授で、動物行動学者。「犬のココロをよむ一伴侶動物学からわかること」の著者。生まれたばかりの子犬を母から離して育児したときのその子犬の社会性の発達の欠如を、また分娩後の養育行動維持には、母と仔が身体的に触れ合う必要性を述べている。人間と犬の結び付きが目と目で行われることそしてそこに介在するお産に関係するオキシトシンと言うホルモンの関与を見いだし，又共感が人間以外の哺乳動物からも見いだせることも報告している。

FRANS DE WAAL（フランス ドゥ ヴァール） 氏　オランダ生まれの動物行動学者でエモリー大学の教授。

『チンパンジーの政治学』というベストセラーで世界的に知られるようになる。「共感の時代」では共感の起源は子育てにあるとし、産後の母子の絆の形成がその後の人間関係の基礎となると書かれている。自らの命の危険を冒してまで、市民を救った 9.11 同時多発テロの消防士や第二次世界大戦時のユダヤ人をかくまった人々達。彼は共感がなければこれらの何一つ起きなかったであろうと述べている。

プ ロ グ ラ ム

10：30～　主催者 挨拶	13：30～　菊水 健史氏〈講演〉
10：45～　養老 孟司氏〈講演〉	14：15～　フランス・ドゥ・ヴァール氏〈講演〉
12：30～　昼休憩	16：30～　閉会 挨拶

※講演内容・スケジュールにつきましては都合により変更する場合があります。予めご了承ください。

お申し込み方法

以下の「講演会公式サイト」よりお申し込みください。

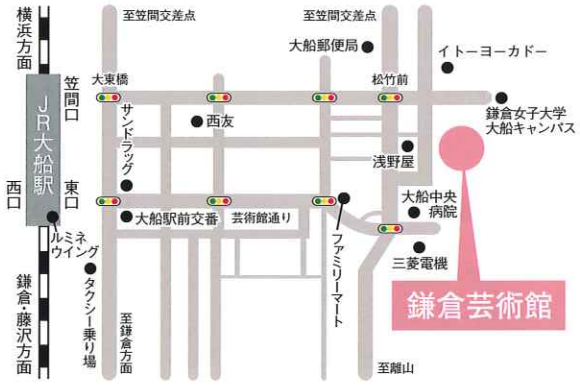
https://amarys-jtb.jp/shonankamakuraseminar/

■詳細・お申し込みは

湘南鎌倉総合病院 お産と共感 で検索

※昼食は各自でご用意ください。

交通アクセス



■JR大船駅（東海道線・横須賀線・京浜東北線）から徒歩約10分
■横浜駅から東海道線で約15分　■東京駅から東海道線で約40分
■駐車場（有料）はございますが、なるべく公共交通機関をご利用ください。

♥託児所はございませんが、授乳やオムツ交換の場所を設けておりますので、受付までお申し出ください。

お問合わせ

医療法人 沖縄徳洲会
湘南鎌倉総合病院
6階お産センター

TEL：0467-46-1717（代表） FAX：0467-45-0190

〒247-8533 神奈川県鎌倉市岡本1370番1
E-mail：shokama.sankafujinka@gmail.com

〈担当：本間・松田〉